

# 街道を歩く

## 中山道：醒ヶ井一番場一鳥居本

### 番場宿（醒ヶ井宿から1里）

中世の頃から東山道が通り西番場辺りに宿駅があったようだ。慶長16年(1611)北村源十郎によって米原湊が開かれると湊と中山道結ぶ深坂道が切ひられる。それにもない宿も東番場に移った街並は1町10間余で中山道で一番短い宿であった。米原湊を結ぶ分岐点として賑わったという（本陣1、脇本陣1、問屋6、旅籠10軒）

### 摺針峠、望湖堂（平成3年焼失）

峠から長浜、琵琶湖が望めすばらしい景観だったという江戸時代峠に“望湖堂”という立場茶屋が絶景を見ながら“摺針餅”に舌鼓をうったという広重の絵、鳥居本宿はここ峠の立場茶屋と云われる

### 摺針（磨針とも）の由来

書生が修行いまだならず京よりの帰途、老婆が斧を磨いていたのを見て、老婆に“何のために斧を磨くの”と尋ねると“鍼にするのだ”と云う。書生我が志し足らざるを知り京に戻って学業を成したと云う若き日の弘法大師の逸話。ここに神社創建老婆を祀る。



### じょうぼんじ 上品寺

七世住職法海坊了海は江戸で托鉢修行し新吉原の遊女花里、花扇らの協力を得て釣鐘を造る浄財募金し、造った釣鐘を台車載せここまで運んだという鐘には明和6年(1769)と寄進した遊女らの名が刻まれている歌舞伎“隅田川 続徳(ごにちのおもかげ)”で上演される

### 上品寺

近江鉄道  
鳥居本駅

### 赤玉神社玉本舗

合羽看板の岩根家

本陣跡

脇本陣跡

高札場跡

青岸寺  
佐々木導誉創建  
名勝青岸庭園



望湖堂跡



脇本陣跡(北村家)  
明治天皇御小休所碑

溝尾神社(直孝神社)

番場

蓮華寺

北条仲時墓  
番場の忠太郎地蔵  
齊藤茂吉歌碑

北野神社

西番場

本授寺

西側にミラー、  
東側の細い路地に入る

菅公腰掛石

寛平6年(894)右大臣菅原道真公が  
坂田郡の布施と名越の2寺へ向かう  
途中ここに腰掛けて休んだという

鎌刃城跡

### 鳥居本宿（番場宿より1里1町）

多賀大社の鳥居があったことから宿の名となる江戸初期彦根藩主直孝により佐和山を開削して彦根に通じる道が出来ると南にあった小野から宿機能が移り寛永年間(1624-44)に宿となる街並は南北10町余、北から上矢倉、鳥居本、西法寺百々村から成る。宿外れ朝鮮人街道分岐点、彦根へ名物は“赤玉神教丸、鳥居本合羽、すいか”（本陣1、脇本陣2、問屋、旅籠35軒）

### 赤玉神教丸本舗（有川家）

多賀大社の神教による調合の腹薬  
万治元年((1658)創業の伝え、今も営業  
和宮降嫁、明治天皇の御小休所となる  
現在の建物は宝暦年間(1751-64)建築



### 蓮華寺（浄土宗本山）

北条仲時から430余名の墓

聖徳太子創建、弘安年間(1278-88)時宗の一向俊聖が土豪の土肥元頼の帰依を受け再興。時宗12派の1つ一向派とした。弘安7年(1284)の梵鐘、土肥元頼の墓と宝篋印塔、樹齢700年の一向杉の古木がある境内には元弘の乱(1333)、六波羅探題北条仲時らが足利尊氏の寝返りで京都を守れず鎌倉を目指して逃走の途中この地で仲時以下430余名自刃。その墓があるまた境内、寺の裏には長谷川伸作「臉の母」の主人公長谷川伸(1884-1963)も4歳とき母に別れ、この戯曲発表の3年後49年ぶりに母に会えたという

南無帰命頂礼 親をたずねる子には親を  
子をたずねる親には子をめぐり合わせ給え  
茂吉の歌碑  
松風の音聞くときは古への 聖の如く我は寂しむ

### 溝尾神社(直孝神社)

彦根藩主2代目直孝のとき宿場機能が整備されたので彼の死後寛永20年(1643)村人が彼の功績を讃えて祀る



合羽看板の掛かる岩根家

### 鳥居本合羽

宿名産鳥居本合羽は馬場弥五郎という人が大阪で合羽制作技術を学び琵琶湖周辺で生育する楮を原料にした紙に菜種油を塗布して作った。後に柿渋を塗布し防寒具としての機能も加わった。最盛期には十数軒あったと云う